至福千年（ミレニアム）

それは天国で実現するのか、現世で実現するのか？

教会に通っていると公言するクリスチャンは無数にいます。そして、彼らはキリストが再臨して統治するという至福千年のことをよく知っています。しかし、主流の聖書根本主義教会はすべて、人の魂は死ぬと同時に天国に行くと教えており、現世での至福千年の統治を否定しています。一方、安息日厳守主義の主要宗派の１つ（セブンスデーアドベンティスト＝安息日再臨派）は、至福千年は天国で実現すると教えています。何故、このような混乱が生じるのでしょうか。皆様の『聖書』が間違いなく神の国がこの世を統治することを**証している**という事を知れば、皆様は驚かれることでしょう。

ガーナ–・テッド・アームストロング著者

「また私は、多くの座を見た。彼らはその上にすわった。そしてさばきを行なう権威が彼らに与えられた。…彼らは生き返って、キリストとともに、千年の間王となった」（黙示録20章4節）今まで、無数の人々がこの文章を読んできました。無数の人々が、イエスキリストが肉体をもって再臨することを『聖書』の通りに信じています。無数の人々が、**キリストが自ら統治する王国**を築くことになるということを理解し始めています。

何年も前、私が初めてイエスキリストの僕として牧師に叙階された時（1955 年）、私が従事した仕事は、到来の近づいた神の王国のことを大声で叫ぶ「荒野の声」の如くでした。

主流の聖書根本主義派の聖職者の大多数は、『聖書』にあるイエスキリストの再臨を否定していました。50年代と 60年代に神学校を卒業した聖職者の大多数は、『聖書』にあるイエスキリストの肉体の復活、イエスキリストが神の右手に昇天したこと、および間近に迫ったイエスキリストの再臨を信じていませんでした！

しかし、徐々に、多数の神学者の考え方に画期的な変化が見られるようになってきました。

かつてなかったほどに、預言に大変強く魅了されているようになっています：将来の出来事が無数の人々の心を捉えるようになっています！

特に独創的な作品の『末期の偉大な惑星地球』（*The Late Great Planet Earth*)を含め、数冊のベスト

セラーの著者であるハル・リンジー（Hal Lindsey)を始めとする多数の著者たちは、各自の著作を通して、ー　私たちは『聖書』に預言されている「最後の時」に生きていること、激しい変革がこの世に起ころうとしていること、そして最後に神の王国が築かれることを、ー　アメリカ、イギリス、カナダ、ヨーロッパ、等々の世界各国の無数の人々に知らせることに貢献してきました！

しかし、間近に迫ったキリストの再臨の事実、神の王国が築かれるという事実について盛んに喧伝されているにも関わらず、王国の支配する場所については、無数の人々の心に依然として混乱が見られます！

聖書は混乱を予言していた

このことは、『聖書』を真剣に学ぶ人々にはほとんど驚くことではありません。

悪魔サタンは、「全世界を惑わす」（黙示録12章9節）あの古い蛇として記述されています。そして、イエスキリストは、民衆の混乱、欺き、妄想、精神的な闇の時に再臨されると明確に預言されています！

「愛する者たち。霊だからといって、みな信じてはいけません。それらの霊が神からのものであるかどうかを、ためしなさい。なぜなら、にせ預言者がたくさん世に出て来たからです。

「人となって来たイエスキリストを告白する霊はみな、神からのものです。それによって神からの霊を知りなさい。

「イエスを告白しない霊は、どれ一つとして神から出たものではありません。それは、反キリストの霊です。あなたがたは、それが来ることを聞いていたのですが、今それが世に来ているのです」（ヨハネの第一の手紙4章1～3節）

有名な「反キリスト」のことを耳にした人々は、無数にいます。『聖書』の預言の中には「にせ預言者」と呼ばれる者がいて、そのにせ預言者が文字通り自分自身を真の神であると宣言して無数の人々を欺くと言うことを、彼らは知っています。

ヨハネもこのことを警告しています：「なぜなら、イエス・キリストが肉体をとってこられたことを告白しないで人を惑わす者が、多く世にはいってきたからです。そういう者は、惑わす者であり、反キリストです」（ヨハネの第二の手紙7節）

「反キリスト」と呼ばれる者が多数いることは、多くの人々が十分に認識していません。更に、この「反キリスト」という呼称は偽りの大宗教指導者にも当てはまると言うこと、またイエスキリストはわたしたちのうちに生きる（ガラテア人への手紙2章20節）ことができると告白しない者も『聖書』では反キリストの霊であると言うことも、共に明白な事実であることを、多くの人々が十分に理解していません。

テサロニケ人への第二の手紙は、にせの大預言者について以下のように述べています。

「だれにも、どのようにも、だまされないようにしなさい。なぜなら、まず背教が起こり、不法の人、すなわち滅びの子が現れなければ、主の日は来ないからです。

「彼は、すべて神と呼ばれるもの、また礼拝されるものに反抗し、その上に自分を高く上げ、神の宮の中に座を設け、自分こそ神であると宣言します」（テサロニケ人への第二の手紙2章3～4節）

使徒パウロは更に、この不法のにせキリストは大勢の人々が完全に騙されてしまうほどの悪魔の力と偽りの不思議（同書2章9節）を有すると述べています。

注目してください！「不法の者は、サタンの働きによって現れ、あらゆる偽りの奇跡としるしと不思議な業とを行い、「そして、あらゆる不義を用いて滅びていく人々を欺くのです。彼らが滅びるのは、自分たちの救いとなる真理を愛そうとしなかったからです。

「それで、神は彼らに惑わす力を送られ、その人たちは偽りを信じるようになります」（テサロニケ人への第二の手紙2章8～11節）

悪魔サタンは、大詐欺師です。

しかし、騙された人は完全に純真であって、自分が騙されているという事実に気付いていないのです。このことを心に留めておいて下さい。

様々な形をした知的・宗教的な欺きを経験して苦労した人は、渇望し、探究する真摯な人であることが多いのです！

このような人は、最善の動機しか持つことができません。－　汚れの無い高潔な人格を備え、純粋で神聖なクリスチャンライフを送るために懸命に努力しています！

人が騙されるということは、その人の意図が間違っていたということではありません！

このような事柄が心に引っかかるようになると、しばしば、我々の心理的な防衛機制が目覚めて議論することになります。つまり、私たちが心に抱いている考えや信念が真実であるのかどうか、実際は間違っているのではないかと、疑問に思うようになるのです。

私たちは、これを自分たちの「経験に基づく自己」に対する攻撃であると解釈しています。私たちの心理的な防衛機制は即座に、自己を正当化しようとします　－　絶対に、私たちが騙されたなんてことはあり得ない。

私たちは、自分たちが信じていた事が間違いであると証明するものは何でも人格に対する攻撃を意味していると考える傾向にあります。

そうではないのです！

それは、人格とは関係ありません！善良な人格の人は、騙され易いのです！
悪魔サタンは、「空中の権威を持つ支配者」（エペソ人への手紙2章2節）であり、この罪に病む偽りの現世の邪悪な神であると理解されています（コリント人への第二の手紙4章4節）。

悪魔サタンは自分の教会を持っており、（黙示録3章9節；17章4－6節）これらの教会には聖職者もいるのです！（コリント人への第二の手紙11章13－15節）

欺きの策略は、どのようにして準備されるのでしょうか

地球外生命、太古の文明の神秘、悪魔崇拝、魔法、見えない霊の世界、あれこれ取り沙汰されている宇宙人の「侵略」などの地球に影響する未来の出来事　－　等々に関して、今まで経験したことのないくらいに空想的な妄想が見られます！

何百万・何千万の若者がバック・ロジャーズの宇宙旅行の時代に関心を抱くきっかけになったコンピュータゲーム / テレビゲーム / ビデオゲーム（スペースインベーダー、パックマン、etc.）などの爆発的な普及から、無数の映画 / テレビの特別番組 / 何万冊もの空想科学小説に至るまで　－　こうしたものが、何百万も何百万も作られて誤った信念を助長しています。このような現象は、黙示録17章14節の預言の成就に直接、結びつくのでしょう。

キリストが再臨される時、正気の人間なら誰がどのようにしてキリストと実際に

戦うことができるだろうかと、人は疑問に思うかもしれません。

答えは？

真のキリストが実際は反キリストであると信じるのであれば、またイエスキリストの真の再臨という事実を認めないでそれが反キリストの邪悪な出現であると信じるのであれば、その人は、横柄な欺瞞により、勝利する宇宙の王、ナザレのイエスキリストの現実の再臨を妨害する準備が完全に出来ていることになるでしょう。

それが起こった時　－　イエスキリストが現実にこの世に戻ってこられる時　－　それは(a)遠い彼方の惑星から来た不思議な生命による宇宙からの侵略である；(b)　レ–ザー兵器、宇宙鏡、人類の破滅をもたらす核兵器、「宇宙船」、軌道衛星などの超兵器を使用した強国による侵略；或いは、(c)　反キリストおよび彼の率いる多数の悪魔がこの世界を乗っ取って支配しようとする最後の抵抗による超人的な攻撃である、と確信する人々が無数に存在するでしょう。

欺きの策略に対するあなたの防衛策は何でしょうか？

皆様にとって、最も重要なものは何でしょうか？

皆様の概念（考え方）は、幼少の成長過程あるいは通っていた教会で学んだ伝統、大切な「信仰」、宗教的な教えに基づくものでしょうか？また、皆様の信仰の判断基準は、神聖で尊い絶対的な神の言葉が尺度になっているのでしょうか？

皆様は、本稿において、近年における一人のにせの大教師の実態が暴露されるのをご覧になるでしょう！

いかにして『聖書』が故意に曲解されているか、そしていかにして無数の人々がいわゆる宗教指導者が書き記したものを『聖書』と注意深く比較することなく、彼らの曲解を鵜呑みにしているか、皆様はお気付きになることでしょう！

どういうわけか、信仰心の厚い人が人間の宗教指導者に期待を寄せるようになると、その人は、いつの間にかその指導者をイエスキリストご自身と取り替えるようになります！

最後には、偶像崇拝的なまでの人間崇拝の時がやって来て、疑うことを知らない一般信者は

無意識のうちにその宗教指導者をイエスキリストご自身と取り替えてしまうのです！

この時点になると、こうした人間の宗教指導者は不完全で誤りを犯すことがあっても自己中心主義と虚栄心の虜になって、書かれた神の言葉とは正反対の教義を提示して教え始めることになります。そして信者たちは、疑問に思うことも無く「たとえ何があろうとも」その宗教指導者に従わなければらないと確信して、おとなしく教えに従うことになります！

彼らは最早、一人の人間の宗教指導者がキリストにならう者である（コリント人への第一の手紙11章1節）という理由だけでその指導者に従うだけにとどまりません。今度は、宗教指導者が「キリストにならう」という理由だけで彼に従うことは「十分ではない」と、彼らは口にし始めるのでしょう！

さてこれから、セブンスデーアドベンティスト教会の教義について検証することにしましょう。その教義によれば、聖人は「調査審判」のために、1,000年間、天国に迎え入れられることになっています。その間、この世は完全に荒れ果てたままで、悪魔サタンがほとんど唯一の住人で、彼は、自己の反逆がもたらしたすざましい破壊を際限なく顧みているのです。

セブンスデーアドベンティストの人々は、キリストがこの世を統治する 1,000年の間、聖人たちは天国に行くという教義、および Mrs.E.G.White の著作にも描かれている「荒れ果てたこの世」のことは良く知っています。

確かに、彼女の著作の中では、『大論争』（*The Great Controversy*) ほどこの教義に説得力を与えるものは他にありません。

勿論、セブンスデーアドベンティスト教会の指導者たち自身が正真正銘の剽窃者と言われている偽りの女性預言者Mrs.E.G.White の正体を暴露し始めていることは、最近、新聞、雑誌などで大きく取り上げられています。と言うのも、彼女は、自著とされている多数の著作のすべてを本当に創作したわけではなく、出典を明記しないで大量に借用している可能性があるからです。

今や、そもそも Mrs.E.G.White がセブンスデーアドベンティスト教会の何万人もの信者が思い描いてきたような「女性預言者」であったのか、また彼女の著作が従来考えられていたような重要性を少しでも持つものであるのか、ということが“大論争”になっているように思えます。

現実に、多数の真摯なセブンスデーアドベンティストの信者は、Mrs.E.G.White の著作を『聖書』と同等に見なしていました。

恐らく無意識のうちに、彼女の著作を『聖書』よりも上に置いていた信者もいたことでしょう。もしそうなら、一人の人間の指導者の言説や著作を、ナザレのイエスの言説やイエスに関する著作よりも上に置いて徐々に代用するという偶像崇拝が、人々の心の中で実際に起こっていたことになります。人の心は、他の人間をそこまで過度に賞賛するところまで進んで行ってしまうのでしょう。

まず、Mrs.E.G.White が至福千年の始まりにおける天国とこの世の筋書きをどのように想像していたのか、『大論争』の記述を見てみましょう。

「キリストの再臨の時には、悪者は地上から抹殺されます　－　キリストの口から出た霊で滅ぼされ、キリストの栄光の輝きで打ち砕かれるのです。キリストは、選民たちを神の都に連れて行き、地上からは住人の姿が消えます。…全世界は、荒れ果てた荒野と化します。地震で破壊された都市や町の廃墟、大波や大地震で根こそぎにされた木々や押し流されたり転げ落ちたりしたゴツゴツの岩が、大地のあちこちを覆っています。また、山の土台が裂けたところでは巨大な洞穴が広がっています。

「…贖罪のヤギが無人の土地に追いやられたように、サタンは、荒れ果てた土地、無人で陰鬱な荒野に追放されるでしょう。

「預言者は、サタンの追放と、この世界が帰すことになる大混乱と荒廃を預言し、この状態が千年間続くと宣言しています」（『大論争』657～658 頁）

『大論争』に見られる『聖書』に関するとんでもない誤解、目に余る引用の間違い、歪曲、こじつけについて徹底的に論評するには、少なくとも丸々一冊の書物が必要になるでしょう。

上記の引用は、Mrs.E.G.White の有名な『大論争』の「この世の荒廃」と題する章の中の 2 頁分の一部に過ぎません。

皆様もここで、『聖書』を参照しながら、以下について検証して下さい。

以下に、Mrs.E.G.White によるイザヤ書24 章 1,3,5,6節の引用を一語一句正確に引用します。

思い出して下さい。上記でも少し触れましたが、（大多数のセブンスデーアドベンティストの人々に最も受け入れられている）彼女の教義は、イエスキリストの統治する至福千年の期間にこの世全体が完全に「荒れ果てた」状態になり、聖人は天国に昇り、その間、悪魔サタンは荒れ果てた無人のこの世に鎖で縛られて、彼が試みた神の座と神の統治の転覆という陰謀等のすべてが打ち砕かれるのを目の当たりにして激しく苦悩すると主張しています。

しかし、これは『聖書』が述べいることでしょうか？

これから皆様が理解されるように、Mrs.White がイザヤ書24章を開いて筆記するあたり、意図的に引用を外したと思われる多くの箇所　－　千年間の「荒れ果てたこの世」という彼女の説をすべて完全に打ち砕いていたような重要語句そのもの　－　を読まなかったということを前提とする人は、奇妙な「視野狭窄」の症状を患って苦しんでいるに違いありません！

ご自分で検証をするために『聖書』にしるしを付けるのを望まれない場合は、Mrs. E.G. White が意図的に省略した言葉を手元の『欽定英訳聖書』から抜け出して頂くだけで結構です。

『聖書』の用意は宜しいですか？

イザヤ書24章1－6節を開けて頂けましたか？

それではスタートしましょう！

以下は、『大論争』657頁の下の2/3頁ほどにわたって見られるMrs.E.G. White による『聖書』からの引用です：「キリスト再臨の時には、悪者は地上から抹殺されます　－　キリストの口から出た霊で滅ぼされ、キリストの栄光の輝きで打ち砕かれるのです。キリストは選民たちを神の都に連れて行き、地上からは住人の姿が消えます。

「見よ。主は地を荒れすたらせ、その面をくつがえした、その住人を散らされる。」
地は荒れに荒れ、全くかすめ奪われる。主がこの言葉を語られたからである。

「彼らが律法を犯し、定めを変え、とこしえの契約を破ったからである。」
「それゆえ、のろいは地を食い尽くし、その血の住人は罪ある者とされる。また地の民は焼かれて」
（イザヤ書24章1, 3, 5, 6節）

ここで、1節から6節の中でMrs.White の引用から省略されているすべての言葉にアンダーラインを引くか、またはそれらを書き出して下さい。

省略箇所は、以下の通りです：「民は祭司と等しくなり、召使はその主人と、女中はその女主人と、買い手は売り手と、貸す者は借りる者と、債権者は債務者と等しくなる」(イザヤ書24章2節：訳者注)

「地は嘆き悲しみ、衰える。世界はしおれ、衰える。地上の最も高貴な民も弱り果てる」(イザヤ書24章4節：訳者注)

「地はその住人によって汚された；…そしてわずかの者が残される」！(イザヤ書24章6節)

何という違いでしょう！ここで、検証のために、イザヤ書24章全体を正確に読んで下さい！

(極度の「視野狭窄」を患っているのか、或いは単に正真正銘の不誠実であるのか、いずれかの理由で) Mrs.E.G.White が明らかに気付かなかった幾つかの要点に注目しましょう！

イザヤ書24章の主題は明らかに、大きな艱難の時(イザヤ書24章1-18節)、天のしるしの時(イザヤ書24章23節)、主の日、イエスキリスト再臨の時に、(23節)、この世に下る神の懲罰です。

しかし,イザヤ書24章は、地上から住人が完全にすべていなくなるとのべているでしょうか？

以下の言葉に注意して下さい！

「見よ、主は地を荒れすたらせ、その面をくつがえして、その住人を散らされる」！

思い起こして下さい。「earth」(地球 / 世界 / 土地 / 地上/ この世 / etc.)に当たる古代ヘブライ語は「*ehrets*」で、この言葉は区分的または共有的な土地(land)を意味することもあるのです。また、全世界(whole world)の意味にも、或いはその全世界との関係において話される「土地」(land)の意味にも使用することができるのです。この場合(コンテキストから明らかなように)、神は「その住人を散らされる」と『聖書』に述べられているという単純な理由で、この言葉は「土地」のことについて語っていることになります！

この世の住人(生きて呼吸する人間の住人)はどうなるのでしょうか？彼らは完全に滅ぼされるのでしょうか？たった一人の男、女、あるいは子供も残されないのでしょうか？この世はすべて、完全に荒れ果てて、すべての住人がいなくなるのでしょうか？

いいえ！『聖書』は住人（市民、国民、全住人）が「四方八方に散らされる」と述べています！これは、住人が地上（land: *ehrets*）のある地方から他の地方に広く分散されることを意味しています。

続いて第2節では、社会的地位に左右される人はいないこと　－　司祭、女中、女主人、買い手、売り手、貸す者、等々は全て等しくなる、と述べています。

4節に注目して下さい！それはこう述べています「…地上の最も高貴な民も弱り果てる」！「弱り果てる / 衰える」（languish）ということは恐らく、苦難、窮乏、更には負傷という絶望的な苦境の中で嘆き悲しみ、苦しむことを意味しています！しかし、苦しむ人々は生きている人々です！

第5節の次の数語に注目してください：「地はその住人によって汚された」！この世には依然として住人がいることに注目して下さい。この世は汚されて、滅びます；神の裁きが諸国に下り、国々が完全に滅び、甚だしく大勢の人々の生命が失われのです！

しかし、『聖書』のこの一節には生存者のことが述べられています！

第6節に注目して下さい：「それゆえ、呪いが地を食い尽くし、*そこに住む者*は罪を負わねばならなかった」！

Mrs.White は選択した節のこの*斜字体*の部分だけ引用して、そのまま先に進んで、「それゆえ、地に住む者は焼き尽くされ」という部分も含めているのですが、『聖書』ではコンマで区切られているところに終止符を用いているのです！

以下のことによく注意して下さい！

イザヤ書24章6節に注目して下さい。「地に住む者は焼き尽くされ」という言葉に続いて、『聖書』には「わずかの者だけが残される」という言葉がくることに気付かれるでしょう！

何故、Mrs.E.G.White は意図的に、これらの言葉を　－　この大破壊の後に残された生きた住人がいることを証する極めて描写的なこれらの言葉を省略したのでしょうか？

そうです、何故、彼女は意図的に、神聖は神の言葉である『聖書』ではコンマになっているところに終止符を用いたのでしょうか？

彼女は、神の言葉から「取り去る」者には全能の神が大きなのろいの言葉を下すことを十分に理解していなかったのでしょうか？ここで、イザヤ書24章全体を読み終えて下さい。

第9節に注目して下さい：「ぶどう酒を飲むこともなく、…これを飲む者に」。ここでも再び、住人のことが記されています！

第10節：「…すべての家は閉ざされて、はいれない」

第13節に注目して下さい：「世界（*ehrets*）の真ん中で、国々の民の間で…」

第14節に注目して下さい：「彼らは声を張り上げるだろう、彼らは主の威光を喜び歌うだろう、彼らは海から叫び声をあげるだろう」。

誰のことでしょうか？生きて残された民！この世の住人のことです！

第17節およびその他多数の節に注目して下さい：この章では何回も何回も、地には依然として住人が存在することが証されています！

「地上の住人よ。恐れと、落とし穴と、わなとがあなたがたにかけられ」！

これ以上の証拠が必要でしょうか？必要ならば、これと同じ検証を『大論争』の「この世の荒廃」（desolation of the earth）の章全体に適用するだけで事足りるでしょう。そうすれば、神聖な神の言葉に対するこの種の歪曲、曲解、意図的省略、こじつけの例が次から次に見つかることでしょう！

これは確かに、神聖な『聖書』の言葉の歪曲・曲解に関して、記録に残る中で最も露骨かつ意図的な実例の 1 つです。尤も、どの宗教指導者の著作の中にもこうした例が多く見つかることはよくあることで、真剣に、誠実かつ注意深く神の言葉を学ぶ者ならば、神が言う通りに、こうした指導者の言う事を『聖書』と比較して検証することでしょう。

ところで、至福千年が過ごされることになる場所について『聖書』はどう言っているのでしょうか。

聖人がこの世を統治する！

「また私は、多くの座を見た。彼らはその上にすわった。そしてさばきを行なう権威が彼らに与えられた。. . . 彼らは生き返って、キリストとともに、千年王となった」（黙示録20章4節）

至福千年（ミレニアム）という言葉は『聖書』の中では一度も使用されていません。この言葉は「千年」を意味する英語の一単語に過ぎません。黙示録20章4,5,6,7節において話されているこの「千年」（a/ the thousand years）に言及するために、多くの人々が「至福千年」という言葉を使用しているのです。

この至福千年、即ち千年間は**何処で**過ごされるのでしょうか？

復活した聖人が、再臨したイエスキリストに空中で出会う人々と共に、**1,000年間**をイエスキリストと一緒に「生きて統治する」ことになると、黙示録には述べられています。

それは何処でしょうか？

注目して下さい！

「そして、彼らは新しい歌をうたった。「あなたは、巻物を受け取り、その封印を開くのにふさわしい方です。あなたは、屠られて、あらゆる種族と言葉の違う民、あらゆる民族と国民の中から、御自分の血で、神のために人々を贖われ;

「彼らをわたしたちの神に仕える王、また、祭司となさったからです。彼らは**地上**を統治します」（黙示録5章10節）

イエスは言われた「勝利を得る者を、わたしは自分の座に共に座らせよう。わたしが勝利を得て、わたしの父と共にその玉座に着いたのと同じように」（黙示録3章21節）

イエスが受け継ぐことになるその御座は何処にあるのでしょうか。それは、**この地上**にあるのです！

注目して下さい！：「その子はすぐれた者となり、いと高き方の子と呼ばれます。また神である主は、彼に父ダビデの王座をくださる。彼はとこしえにヤコブの家を納め、その支配は終わることがありません」（ルカ書1章32,33節）

イエスキリストの生誕に先立つマリアへのこの挨拶では、全能の神がダビデと契約を結ばれたよう

に、イエスがダビデの座を受け継ぐために再臨されることが預言されていました。

この座について、預言は次のように述べています：それは「覆される、覆される、覆される［覆されるが 3回も！］、権威をもつ者が来る時まで、その跡形さえも残らない」（エゼキエル書21章27節）

イエスキリストがこの世を納めることを神が約束していることに注目して下さい：「見よ、このような日が来ると、主は言われる。わたしは、ダビデのために一つの正しい若枝を起こす。彼は王となって納め、栄えて、この国に公義と正義を行う」（エレミヤ書23章5節）

「荒れ果てたこの世」という Mrs.E.G.White の説を完全に滅ぼす最も重要な『聖書』の文章の 1つは、イザヤ書11章です！

ご自分の目でこの興味深い重要な章を読んで下さい。

「弱い人のために正当な裁きを行い、この地の貧しい人を公平に弁護する。その口の鞭をもって地を打ち、唇の勢いをもって逆らう者を死に至らせる。… 狼は子羊とともに宿り、豹は子やぎとともに伏す。子牛、若獅子、肥えた家畜が共にいて、幼い子供がこれを導く。

「牛と熊とは共に草をはみ、その子らは共に伏し、獅子も牛のようにわらを食う。

乳飲み子は毒蛇［パフ「アダー］の穴の上で戯れ、乳離れした子はまむしの子の穴［毒蛇の穴］に手を伸べる。

「わたしの聖なる山のどこにおいても、何ものも害を加えず、滅ぼすこともない。水が海を覆っているように大地は主を知る知識で満たされる。

「その日、エッサイの根［キリスト］は、すべての民の旗印として立ち、もろもろの民［この世の諸国民］は彼を求めて集う。彼の休息する所［キリストによる至福千年の統治］は栄光に輝く。

「その日［キリストの再臨の直後で、この世に神の統治が樹立されようとしている日］、主は再び御手をのばし、ご自分の民の残りを買い取られる。彼らは、アッシリア、エジプト、上エジプト、クシュ、エラム、シナル、ハマト、海の島々に残されていた者である。

「主は、諸国の民のために旗印を掲げ、地の四方の果てからイスラエルの散らされた者を取り集め［イザヤ書24章にある「散らされた」住人のことを憶えておられますか？」ユダの散らされた者

を集められる。…エジプトの地から上った日にイスラエルのために備えられたように、アッシリアに残されていたこの御民の残りの者にも広い道が備えられる」（以上、イザヤ書11章からの抜粋）

エゼキエル書36章から、如何にして荒れ果てた場所が再建されるのか読んで見ましょう。

続いて、イザヤ書2章とミカ書4章の素晴らしい預言を読むことにしましょう。

両方とも、この世に**神の王国**が樹立されることに関係しています！

注目して下さい！「終わりの日に、主の神殿の山［**神の王国**］は、山々［大きな国々の象徴］の頭として堅く立ち、どの峰［小さな国々の象徴］よりも高くそびえ立ち、すべての国々がそこに流れてくる！

「多くの民が来て言う。『さあ、主の山に登り、ヤコブの神の家に行こう。主は私たちに道を教えてくださる。私たちはその道を歩もう』と。それは、主の教えはシオンから、御言葉はエルサレムから出るからだ。

「主は国々の争いをさばき、多くの民を戒められる。彼らはその剣を鋤に、その槍をかまに打ち直し、国は国に向かって剣を上げず、二度と戦いのことを習わない」！（イザヤ書2章2－4節）

ミカ書の預言の中から類似の記述を読んでみましょう。ミカは、次のように言っています。
「…国は国に向かって剣を上げず、二度と戦いのことは習わない。

「彼らはみな、おのおのの自分のぶどうの木の下や、いちじくの木の下にすわり、彼らを脅かすのは何もないと、万軍の主の御口が告げられる。

「どの民もおのおの、自分の神の名によって歩む。私たちは、とこしえに、私たちの神、主の御名によって歩もう。

「その日が来ればと、主は言われる。わたしは足のなえた者を集め、追いやられた者、また、わたしが苦しめた者を寄せ集める。

「わたしは足のなえた者［イスラエルの残りの民］を残りの民としていたわり、遠くへ連れ去られた者を、強い国民とする。**シオンの山で**、今よりとこしえに、主が彼らの王となる」！

何か、これ以上に明白なものがあるでしょうか？

実際、これらは、ナザレのイエスキリストがこの世に再臨されること　－　イエスキリストがこの世に主の偉大な王国を築くこと　－　イエスキリストが至福千年の千年間をこの世の人間の物理的な国家を納めることになる、ということを決定的に証する文字通り何十もの『聖書』の文章の数例に過ぎません！

天国には、ライオン、毒蛇、ひょう、牛、幼い子供はいるのだろうかと、疑問に思われますか？理性的で良識があり正しい考えを持った人は誰でも、これらの多数の神聖な聖書の言葉、永遠の神の轟きわたる宣言を読めば、**神の王国**が**この世**を統治することになることを絶対的に**確信する**でしょう。

ゼカリヤ書14章4節を読んで下さい！ここでは明らかに,イエスキリストが再臨される「その日」,主の「足はオリーブ山の上に立つ」こと　－天使の死者が言うように,主は「天に上って行かれるのをあなたがたが見たときと同じ有様で」（使徒行伝1章11節）再臨されることを証しています！

テサロニケ人への第一の手紙4章17節およびその前後の文章の中で、キリスト再臨の時に生きている人々は、「空中で主に会うために彼ら［復活した人々］と共に拾い上げられ」ということを読めば、マタイ書24章31節の預言通りに、天使たちが世界中から救済された人々を集め、彼らは共に再臨される勝利のキリストに空中（空中というのは、この地球の環境、それを取り巻く大気の正に一部です）で**会い**、さらに正にその日のオリーブ山に降りてくることになる、ということが分かります。

聖人が天国に連れてゆかれ「歓喜」が長く続くという考えは、悪魔サタンがでっち上げた他のうそと同様に誤りです！

確かに、真摯で信仰心のある人々は、宗教指導者が（時には意図的に）彼らを欺くことがあるということを知ると、衝撃を受けるでしょう。

この種の欺きに対する**唯一**の防護策は、彼らの発言や文章を神聖な**神の言葉**と比較して検証することです！

未来の出来事は、黙示録において大きく 3 つの預言に分類されています。それは、(1)　大きな艱難の到来、(2) 天のしるし、および (3)　主の日です。

次の『聖書』の 2 か所を暗記していると、『聖書』に明記されている出来事の順序について皆様は誰からも再び騙されることはないでしょう！ヨエル書2章31節、そして次にマタイ書24章29節を読むだけでいいのです！

天のしるしは大きな艱難（マタイ書24章29節）の直後にくること、および天のしるしは主の大いなる恐るべき日（ヨエル書2章31節）の直前に出現することが分かるでしょう。

「大きな艱難」とされる期間の恐怖の故に、「聖人」の誰かがこの時に依然としてこの世に存在することは考えられないと、「熱狂的信者」は勝手に想像しています！

しかし、『聖書』は明白に聖人たちが存在することを証しています！

主である救い主イエスキリストの恩寵と理解に包まれて勝利し成長し、世界の状況を見守り、祈り、神のみわざに深く関わる人々は　－　必要な時に非常に重要な自分の証人を見捨てることのない人々を含め　－神業により守られるでしょう。エジプトに疫病が流行した時にゴシェンの地で神がイスラエル人を保護した時と同じように！

正に今、私たちはその大きな艱難の時代に入ろうとしています！

例えば、合衆国、英国、カナダ、南アフリカ、オーストラリア、ニュージーランド、英連邦諸国、北西ヨーロッパの民主主義国の国民に国難が今にも降りかかろうとしています！

また、ローマ教皇の要請を受けてパレスチナと中東にヨーロッパの多国籍軍が緊急配備されています（ダニエル書11章40－45節を参照）。

世界的規模の大貿易戦争が目前に迫っています！地球規模の経済的崩壊が目前に迫っています！

間もなく世界の主要国の多くを襲うことになる恐ろしい貧困が原因で、軍国主義者、独裁者、圧制者が登場してくることでしょう！

深刻な保護貿易主義,利益獲得のための各種製品の「投げ売り」,関税,追徴金、法外な輸出入税,および貿易戦争が始まっている今日,間もなく、その大きな影響が世界中の銀行業界に波及するでしょう！

忘れないで下さい。不思議な「獣の刻印は、本来の霊的な事だけでなく、経済的な事でもあるのです。この「刻印」を得なければ（それは、それを受けた人の額に刺青された一種の見えない個人的な ID番号なのでしょうか？）、誰も「買うことも売ることも」できない、と明確に述べられています！

最後に、西洋諸国が、ヨーロッパ 10カ国を率いる新しい独裁者の圧制の下で平伏する時、全能の神は、ヨーロッパの新勢力とソビエト連邦との間で地球規模的な核戦争が起こる直前にすべての人間活動を停止させるでしょう！

このような戦争は、文字通り人類すべての絶滅を意味するでしょう！

神は、その直前にそれを停止させるつもりです（マタイ書24章21－22節）！

どのような出来事がそれを停止させるのでしょうか？

黙示録6章と 7章の最後を読んで下さい！

この預言は、ヨエル書2章31節およびマタイ書24章19節と直接結びついています！全能の神は、天国を遠ざけて、神の「天国の印」の劇的な展開で全人類に衝撃を与えられます。このため、多くの国の指導者たちは非常に恐れて、岩が落ちてきて自分たちを隠してくれるように、大声で懇願するのです！

そして、無気力で熱意の無い人々や「初めの愛を失った」人々　－　メッセ―ジを耳にしながら心に留めることをしなかった無数の人々　－　彼らが現実に起こっていることにショックを受けて、事の意味を愕然として理解し、神に回心を願い泣き叫び始める時　－　恐ろしい主の日は、瞬く間に到来するでしょう！

主の日は、7 つのラッパの災害で構成されています。災害の最後の 3 つは「3 つの災害」と呼ばれているものですが、これらの「3 つの災害」は「7 つの最後の災害」で構成されています。

キリストがこの世に再臨するのは、7 つの最後の災害の噴出が最終局面になってからです！

『聖書』の預言における出来事の順序をこうして段階的に理解した上で、マタイ書24章、マルコ書13章、ルカ書21章を参照しながら、黙示録を注意深く綿密に検証して自分自身でこの出来事

の順序が正しいことが証明できるようになれば、自分の崇拝者を獲得しようとして意図的に『聖書』を曲解するような偽りの指導者に騙されることは決してないでしょう！

無数の人々が完全に人生の目的そのものを見失ってしまうのは,悪魔サタンの巧みな策略のせいです！

この人生はまさしく神の王国に至るための「基礎訓練キャンプ」、つまり一時訓練のようなものであると言う事を多少とも本当に理解している人々が何と少ないことでしょう！

「王や祭司」になって実際に高貴な玉座に座り、ナザレのイエスキリストと共に統治し、世界中の人々に裁決や宣言を下し、罪に病んで戦争に引き裂かれた世界に最終的な平和を強要する命令を発する資格を得るために、私たちはせっせと勤しまなければならないことを理解している人々が何と少ないことでしょう！

この世は、様々な問題が存在する所なのです！

イエスキリストが大掃除をし　ー様々な問題を解決し　ー　完全な全員参加の喜びの時代の到来を告げようとしておられるのは、この世においてなのです！

そうです、聖人は、この世で統治するのです！

イエスの忠告を忘れないで下さい（ルカ書21章36節）。世界のニュースや状況を油断せずに見守りながら「やがて起ころうとしているこれらすべてのことからのがれ、人の子の前に立つことができるように」いつも祈っているかどうか、自問自答して下さい。

ー End ー

皆様の友人やご家族に限り、本稿のコンテンツをコピーして無料で配布して頂いて結構です。但し、その場合、本稿のコンテンツに変更を加えることなく、著作権者および出版社の名前を明記して下さい。一般読者のために出版することを禁じられています。

この出版物は、個人の学習ツールとして使用することを意図しています。人間の言葉に何か深い意味を求めるのは賢明ではありません。すべてのことについて、『聖書』の内容と比較して正しいか誤っているかご自身で検証して下さい。

The Garner Ted Armstrong Evangelistic Association
P.O.Box 747
Flint, TX 75762
Phone: (903) 561-7070・Fax: (903) 561-4141

参考文献は、以下のウェブサイトから無料で入手できます。
www.garnertedarmstrong.ws

「ガーナテッド・アームストロング福音協会の活動は、キリスト教徒とイエス・キリストの教えに従って福音を説く協力者からの自発的な十分の一税、奉納及び献金で成り立っています。